

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月9日
【四半期会計期間】	第12期第2四半期（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	シダックス株式会社
【英訳名】	SHIDAX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 志太 勤一
【本店の所在の場所】	東京都調布市調布ヶ丘三丁目6番地3 (上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記の場所で行っております。)
【電話番号】	03 (5784) 8881 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 兼 経理財務本部長 兼 IR担当 若狭 正幸
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区神南一丁目12番13号
【電話番号】	03 (5784) 8881 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 兼 経理財務本部長 兼 IR担当 若狭 正幸
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第11期 第2四半期 連結累計期間	第12期 第2四半期 連結累計期間	第11期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(百万円)	92,998	92,142	188,244
経常利益(百万円)	1,601	1,879	4,853
四半期(当期)純利益(百万円)	220	732	781
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	195	773	706
純資産額(百万円)	19,934	20,135	20,445
総資産額(百万円)	97,371	90,186	89,679
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	5.73	19.80	20.58
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	20.4	22.2	22.7
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	4,858	4,177	13,416
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,157	1,521	2,225
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	849	558	10,474
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	11,181	11,128	9,023

回次	第11期 第2四半期 連結会計期間	第12期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	20.43	22.09

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要を背景として、経済活動に回復の兆しが見られたものの、欧州債務危機に伴う海外経済の減速、新興国の成長鈍化、長期化する円高や株価の低迷などにより先行き不透明な状況が続いております。また、個人消費におきましても、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識や節約志向が高まるなど、企業を取巻く環境は厳しく推移しております。このような市場環境のもと、当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かした営業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は92,142百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。利益面につきましては、営業利益は2,009百万円（前年同四半期比7.0%減）となり、経常利益は1,879百万円（前年同四半期比17.4%増）、四半期純利益は732百万円（前年同四半期比232.1%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、商品・物流コスト削減、在庫の削減などに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によって、スケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルギー関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は21,145百万円（前年同四半期比8.5%減）、セグメント利益は1,857百万円（前年同四半期比15.1%減）となりました。

コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、各企業の生産調整・人員配置の見直しなどによる雇用環境の悪化によって、経営環境は大変厳しい状況にあります。このような環境のもと、「陳建一プロデュース四川料理フェア」などのイベント展開、一元物流システムの導入強化、適正な労務体制の確立、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上を目指してまいりました。また、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、車両運行管理サービスなどを含んだ総合的なソリューション提案を行い、収益向上を目指すとともに、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。さらに、福島県相馬市の仮設住宅への食事提供、仮設住宅で食生活セミナーとクッキング教室を開催するなど、震災支援活動にも積極的に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,643百万円（前年同四半期比1.4%増）、セグメント利益は949百万円（前年同四半期比3.2%増）となりました。

メディカルフードサービス事業

経済情勢により病院などの経営環境が厳しい状況の中、同業他社との競争は厳しさを増す状況が続いております。このような環境のもと、一元物流システムの導入強化、材料・労務管理の徹底、既存店舗の解約防止を目的としたイベントメニューの構築、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上に努めてまいりました。また、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」など独自色の強い商品の提供を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。さらに、トータルアウトソーシングを意識した新規クライアントの営業開発にも努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,820百万円（前年同四半期比4.6%減）、セグメント利益は636百万円（前年同四半期比6.5%減）となりました。

レストランカラオケ事業

厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識、節約志向が高まり、お客様のレジャーに対する意識も一段と冷え込み、「安・近・短」嗜好は薄れ、低価格競争も激化しており、大変厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、春・夏メニュー、「ゆったりランチ」の強化・推進、「歌って当てよう INAC神戸レオネッサ・プレゼントキャンペーン」、「一番搾り生ビール・中ジョッキ290円フェア」などのイベント展開、水曜日女性ケータイ会員限定2時間無料（1オーダー制）の「レディースデー」、木曜日男性ケータイ会員限定2時間無料（1オーダー制）の「メンズデー」、女性会員様だけの特別企画「女子会P A C K」の推進、マスメディア連動企画の取り組みなど様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、ケータイ会員を拡大（500万人突破）し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。しかしながら、ロンドンオリンピックや猛暑、集中豪雨等の不安定な天候が続くなど外部環境の影響もあり、厳しい結果となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は22,242百万円（前年同四半期比4.0%減）、セグメント利益は590百万円（前年同四半期比13.8%減）となりました。

スペシャリティールレストラン事業

米国における状況は、失業率等の経済指標が改善しておらず、依然先行き不透明な状況が続いております。このような環境のもと、ケータリング事業の強化、季節メニューイベントなどの販売促進活動の実施により売上増加に努めるとともに、店舗原価管理の徹底や不採算店の撤退などにより、収益性の向上に努めてまいりました。

国内における状況は、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化による生活防衛意識、節約志向の個人消費傾向により、外食離れ、低価格サービスへのニーズの高まりなど、競合との競争が激化し、事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。このような環境のもと、季節・催事のイベントを継続、会員メール配信強化により、集客力アップを図るとともに、コスト管理の徹底を行い収益性の向上に努めてまいりました。また、お客様の多種多様なニーズにお応えするためのメニュー開発及び接客サービスの向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は8,585百万円（前年同四半期比1.0%減）、セグメント損失は220百万円（前年同四半期は338百万円のセグメント損失）となりました。

コンビニエンス中食事業

同業他社、大手コンビニエンスストアとの病院内出店の競争激化や、経営状況の厳しい病院、学校、工場の縮小、閉鎖などにより、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、新規店舗を17店舗出店、POSを効果的に活用し発注精度の改善を図るなど、積極的、効率的な売り場展開を行い、店舗内外の営業強化に努めてまいりました。母の日・沖縄フェアなどの催事・イベントや紙オムツなどの衛生商品の販売促進に努めるとともに、労務費、経費の徹底管理により、赤字店舗の改善を行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,206百万円（前年同四半期比3.0%増）、セグメント利益は222百万円（前年同四半期比13.8%増）となりました。

トータルアウトソーシング事業

公共サービス分野では、少子高齢化と過疎化の同時進行の中で財政再建と地域活性化ニーズが高まり、着実に民間委託が進んでおります。一方、民間サービス分野では、円高や海外経済の減速、デフレ経済の進行や厳しい雇用情勢の中でコスト意識のさらなる高まりから同業他社との競争が激化しており、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、車両運行管理業務においては、お客様のニーズに応じた車両運行サービスの提案を行い、既存取引先の管理営業強化、スクールバスを中心としたバス運行管理業務の新規受注に努めてまいりました。社会サービス業務においては、従来の学校給食業務及び図書館業務に加え、清掃業務の他、東京都世田谷区、石川県七尾市、広島県竹原市等より指定管理者として施設管理・運営を受託するなど、グループ総合力を活かした営業活動により、シェア拡大と適正運営による収益向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は18,658百万円（前年同四半期比3.9%増）、セグメント利益は970百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ507百万円増加し90,186百万円（前連結会計年度末比0.6%増）となりました。流動資産においては、2,176百万円増加し30,288百万円となりました。これは主に、現金及び預金が2,219百万円増加したことによります。固定資産においては、1,669百万円減少し59,898百万円となりました。これは主に、有形固定資産が1,447百万円及び無形固定資産が444百万円減少したことによります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ817百万円増加し70,051百万円（前連結会計年度末比1.2%増）となりました。流動負債においては、1,071百万円減少し38,347百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が303百万円及びその他に含まれているリース債務が831百万円減少したことによります。固定負債においては、1,889百万円増加し31,703百万円となりました。これは主に、社債が1,240百万円及び長期借入金が759百万円増加したことによります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ310百万円減少し20,135百万円（前連結会計年度末比1.5%減）となりました。これは主に、四半期純利益732百万円の計上及び剰余金の配当560百万円により利益剰余金が171百万円増加した一方、取締役会決議による自己株式取得により自己株式が517百万円増加したことによります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.5ポイント低下し22.2%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ2,104百万円増加し11,128百万円（前連結会計年度末比23.3%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、4,177百万円の資金増加（前年同四半期は4,858百万円の資金増加）となりました。これは主に、法人税等の支払額が1,332百万円、賞与引当金の減少額が200百万円あった一方、税金等調整前四半期純利益が1,888百万円、減価償却費が3,480百万円、のれん償却額及び負ののれん償却額が404百万円あったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、1,521百万円の資金減少（前年同四半期は1,157百万円の資金減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が854百万円、敷金及び保証金の差入による支出が598百万円及び事業譲受による支出が82百万円あったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、558百万円の資金減少（前年同四半期は849百万円の資金減少）となりました。これは主に、長期借入れによる収入が7,214百万円、社債発行による収入が1,759百万円及び短期借入れによる収入が396百万円あった一方、長期借入金の返済による支出が6,805百万円、リース債務の返済による支出が1,721百万円、社債の償還による支出が237百万円、短期借入金の返済による支出が80百万円、配当金の支払額が560百万円及び自己株式の取得による支出が517百万円あったことによります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	40,918,762	40,918,762	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数100株
計	40,918,762	40,918,762	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	40,918,762	-	10,781	-	10,186

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の割 合(%)
志太ホールディングス(株)	東京都渋谷区神南一丁目12番13号	13,116,774	32.05
(株)シダ・セーフティ・サービス	東京都調布市調布ヶ丘三丁目6番地3	1,777,800	4.34
志太 勤一	東京都渋谷区	1,225,856	2.99
志太 勤	東京都調布市	1,203,332	2.94
エスディーアイ(株)	東京都中央区銀座2丁目8-9	820,000	2.00
志太 正次郎	東京都渋谷区	604,926	1.47
志太 富路	東京都調布市	380,984	0.93
立花証券(株)	東京都中央区日本橋小網町7番2号 べんてるビル	323,900	0.79
(株)SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	294,800	0.72
シダックス社員持株会	東京都渋谷区神南一丁目12番13号 渋谷シダックスビレッジ	268,200	0.65
計	-	20,016,572	48.91

(注) 上記の他、当社保有の自己株式5,019,726株(12.26%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,019,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,872,800	358,728	-
単元未満株式	普通株式 26,262	-	-
発行済株式総数	40,918,762	-	-
総株主の議決権	-	358,728	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式 数(株)	他人名義所有株式 数(株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の割 合(%)
(自己保有株式) シダックス(株)	東京都調布市調布ヶ丘 三丁目6番地3	5,019,700	-	5,019,700	12.26
計	-	5,019,700	-	5,019,700	12.26

(注) 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が800株(議決権8個)あります。なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含めております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,255	11,475
受取手形及び売掛金	12,938	12,802
商品及び製品	1,190	1,164
原材料及び貯蔵品	1,134	1,137
その他	3,609	3,721
貸倒引当金	17	14
流動資産合計	28,111	30,288
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,230	17,682
その他(純額)	8,824	7,924
有形固定資産合計	27,055	25,607
無形固定資産		
のれん	10,124	9,883
その他	1,911	1,709
無形固定資産合計	12,036	11,592
投資その他の資産		
敷金及び保証金	10,968	11,098
その他	11,992	12,057
貸倒引当金	484	458
投資その他の資産合計	22,475	22,698
固定資産合計	61,567	59,898
資産合計	89,679	90,186

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,027	8,193
短期借入金	-	317
1年内返済予定の長期借入金	11,163	10,859
1年内償還予定の社債	450	772
未払法人税等	943	881
ポイント引当金	324	319
役員賞与引当金	59	54
賞与引当金	2,241	2,046
株主優待引当金	223	134
その他	15,985	14,768
流動負債合計	39,419	38,347
固定負債		
社債	1,400	2,640
長期借入金	21,814	22,573
役員退職慰労引当金	551	561
資産除去債務	3,058	3,080
その他	2,990	2,848
固定負債合計	29,814	31,703
負債合計	69,233	70,051
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	3,277	3,277
利益剰余金	8,838	9,010
自己株式	1,130	1,648
株主資本合計	21,766	21,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	73	57
為替換算調整勘定	1,488	1,438
その他の包括利益累計額合計	1,414	1,381
少数株主持分	94	96
純資産合計	20,445	20,135
負債純資産合計	89,679	90,186

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	92,998	92,142
売上原価	80,642	80,032
売上総利益	12,355	12,109
販売費及び一般管理費	10,194	10,099
営業利益	2,161	2,009
営業外収益		
受取利息	10	9
受取配当金	7	7
団体定期配当金	142	106
負ののれん償却額	79	74
その他	66	233
営業外収益合計	305	431
営業外費用		
支払利息	591	457
寄付金	150	-
その他	123	103
営業外費用合計	865	561
経常利益	1,601	1,879
特別利益		
固定資産売却益	37	14
保険差益	11	-
特別利益合計	48	14
特別損失		
投資有価証券評価損	1	2
貸倒引当金繰入額	158	-
レストラン等店舗閉鎖損	27	3
その他	22	0
特別損失合計	210	5
税金等調整前四半期純利益	1,439	1,888
法人税、住民税及び事業税	662	1,028
法人税等調整額	552	119
法人税等合計	1,215	1,148
少数株主損益調整前四半期純利益	223	740
少数株主利益	3	7
四半期純利益	220	732

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	223	740
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	16
為替換算調整勘定	10	49
その他の包括利益合計	28	33
四半期包括利益	195	773
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	192	765
少数株主に係る四半期包括利益	3	8

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,439	1,888
減価償却費	3,787	3,480
のれん償却額及び負ののれん償却額	428	404
賞与引当金の増減額(は減少)	63	200
貸倒引当金の増減額(は減少)	148	29
株主優待引当金の増減額(は減少)	50	89
受取利息及び受取配当金	17	16
支払利息	591	457
投資有価証券評価損益(は益)	1	2
固定資産売却損益(は益)	37	14
保険差益	11	-
売上債権の増減額(は増加)	628	191
たな卸資産の増減額(は増加)	179	32
未収入金の増減額(は増加)	175	128
仕入債務の増減額(は減少)	375	157
未払消費税等の増減額(は減少)	98	280
未払金の増減額(は減少)	480	234
未払費用の増減額(は減少)	63	127
預り金の増減額(は減少)	166	115
その他	286	71
小計	6,093	5,938
利息及び配当金の受取額	16	16
利息の支払額	576	445
保険金の受取額	13	-
法人税等の支払額	689	1,332
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,858	4,177
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金及び拘束性預金の預入による支出	184	308
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	184	184
有形固定資産の取得による支出	437	854
有形固定資産の売却による収入	253	2
無形固定資産の取得による支出	533	65
無形固定資産の売却による収入	-	16
子会社株式の取得による支出	22	-
事業譲受による支出	-	82
敷金及び保証金の差入による支出	476	598
敷金及び保証金の回収による収入	116	273
その他	57	89
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,157	1,521

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	411	396
短期借入金の返済による支出	238	80
リース債務の返済による支出	1,877	1,721
長期借入れによる収入	6,432	7,214
長期借入金の返済による支出	6,213	6,805
社債の発行による収入	1,954	1,759
社債の償還による支出	262	237
配当金の支払額	581	560
自己株式の取得による支出	466	517
その他	7	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	849	558
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	7
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,842	2,104
現金及び現金同等物の期首残高	8,338	9,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,181	11,128

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

第2四半期連結会計期間より、シダックス大新東環境サービス(株)、シダックス・スポーツアンドカルチャー(株)及びThe Kitchen For Exploring Foods,LLC は新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結子会社であるシダックス・コミュニティー(株)が有する店舗建物に係る入居保証金の返還請求権の一部をミレニアム・アセット・ファンディング・コーポレーション東京支店、グローバルファクタリング(株)及び芙蓉総合リース(株)に譲渡いたしました。当該譲渡契約において売主であるシダックス・コミュニティー(株)は、譲渡契約日及び譲渡代金受取日現在において、買主に上記のとおり譲渡した返還請求権に関連する一定の事項について表明及び保証を行っており、これに違反する事実が判明した場合には損害賠償その他譲渡契約に定める金銭支払の責任を負うこととなります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
損害賠償その他譲渡契約に定める金銭支払の責任の上限額	1,439百万円	1,155百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
給料	3,596百万円	3,442百万円
賞与引当金繰入額	549百万円	578百万円
役員賞与引当金繰入額	50百万円	54百万円
役員退職慰労引当金繰入額	10百万円	17百万円
貸倒引当金繰入額	6百万円	16百万円
ポイント引当金繰入額	26百万円	52百万円
株主優待引当金繰入額	21百万円	12百万円
のれん償却額	507百万円	479百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	11,413百万円	11,475百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	232百万円	232百万円
拘束性預金	-百万円	114百万円
現金及び現金同等物	11,181百万円	11,128百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月25日 取締役会	普通株式	583	15	平成23年3月31日	平成23年6月14日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月23日 取締役会	普通株式	560	15	平成24年3月31日	平成24年6月14日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロ ジックス 事業	コントラ クトフ ードサ ービス 事業	メディカ ルフ ード サービ ス事 業	レスト ラン カラ オケ 事業	スペ シャ リテ ィー レス トラ ン事 業	コン ビニ エ ンス 中 食 事 業	ト ー タ ル ア ウ ト ソ ー シ ン グ 事 業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	568	15,425	18,671	23,161	8,674	6,997	17,964	91,463	1,534	92,998
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	22,528	329	7	23	32	7	74	23,003	864	23,867
計	23,097	15,754	18,678	23,185	8,707	7,004	18,039	114,466	2,398	116,865
セグメント利益又は セグメント損失 ()	2,187	919	681	684	338	195	899	5,229	137	5,367

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,229
「その他」の区分利益	137
セグメント間取引消去	156
全社費用(注)	3,049
四半期連結損益計算書の営業利益	2,161

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結累計期間において、のれんのご金額の重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

当第2四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロ ジックス 事業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンピニ エンス中 食事業	トータル アウト ソーシン グ事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	583	15,643	17,820	22,242	8,585	7,206	18,658	90,740	1,401	92,142
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	20,562	402	5	14	31	8	67	21,090	866	21,957
計	21,145	16,046	17,825	22,256	8,616	7,215	18,726	111,831	2,268	114,099
セグメント利益又は セグメント損失 ()	1,857	949	636	590	220	222	970	5,007	37	5,045

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	5,007
「その他」の区分利益	37
セグメント間取引消去	0
全社費用（注）	3,035
四半期連結損益計算書の営業利益	2,009

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

当第2四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当第2四半期連結累計期間において、のれんの金額の重要な変動はありません。

（重要な負ののれん発生益）

当第2四半期連結累計期間において、重要な負ののれん発生益の認識はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5円73銭	19円80銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	220	732
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	220	732
普通株式の期中平均株式数(株)	38,489,491	36,997,478

(注)1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月9日

シダックス株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 豊島 忠夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 守 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 河合 宏幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているシダックス株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、シダックス株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。